郵便物認可】 柏崎日報

よろんごの木

作った野菜で高齢者を支援

比角でハートリング事業

市内比角地区の住民有志でつくる「心をつなぐ居場所づくり応援団 よろんごの木」（吉田建夫代表）が高齢者支援の一環として、地元事業所などの協力によるハートリング事業を始めた。

同グループは、高齢者や子どもの居場所づくりを通し、心豊かで優しく安心して暮らせる地域を目指し、気軽に「助けて」「助ける」と言える循環型共生社会のための活動を展開している。今回はサロン（お茶のみ）に参加した高齢者から食事について相談があり、これをもとに事業計画が生まれた。

協力は四谷振興会加盟店、柏崎信金西谷支店、スタッフ関係企業など10社。それぞれの事業所で緑のカーテンを育て、収穫した野菜の一部をサロン利用の高齢者の食材として提供してもらう。苗はキュウリ、ゴーヤ、ユウガオ、ツルムラサキの4種。

贈呈式で三井田則雄・振興会代表は「野菜とともにこのハートリング事業が実をつけられるように大切に育てたい」と述べ、吉田代表は「事業所などから参加してもらうことで、地域一体となり、間接的に高齢者支援ができるだろうと考えた。子どもたちからは根菜類を育ててもらう計画もある。子どもや事業所が高齢者を支えるきっかけとして、地域住民の思いをつなぐ事業になればいい」と話した。

ハートリング事業で三井田振興会代表に苗の贈呈を行う吉田代表（右）